

町民の安心のために



質問者
南雲 まさ子 議員



(1) 前立腺がんや膀胱がんの術後の方は、排尿のコントロールができないために尿漏れパッドを使用される方が増えてきていると言われています。その方々が安心して外出できるように、町の公共施設等の男性トイレにサニタリーボックスの設置をしていくお考えは。

(2) AEDの使用が1分遅れるごとに、救命率は10%ずつ低下すると言われています。1人でも多くの町民の方が、AEDを使用できるようにするための講習会は、どのように行われていますか。また傷病者が女性の場合、AEDを使用する際に胸部をおおう三角巾を使用することで、ためら

うことなくAED使用に
応じる事ができます。三
角巾をAEDの付属品と
して配置するお考えは。

A サニタリーボックスの設置・三角巾の配置を進める



回答 (町長)

(1) 公共施設を安心して利用するために、サニタリーボックスを設置することは大変重要なことである。本町では、役場庁舎の男子トイレと多目的



役場2階に設置されているAED

トイレ、生涯学習センター・健康福祉センターの男子トイレに設置済みである。残りの町有施設にも今年度中に設置していく。

(2) 小田原市消防本部主催のAEDの個人向け講習会は年2回開催され、今年は7月と10月に開催し24名が参加している。AEDの周知を進めるため、防災訓練の時、消防本部のAED講習会の開催や、ホームページに使用方法の動画を掲載すること等を検討していく。三角巾は、女性疾病者のプライバシー保護だけでなく応急手当に活用できる。今年度中にAED設置の27箇所に三角巾を配置していく。

食におけるSDGsと地球の健康と私たちの健康について



質問者
平野 由里子 議員



食におけるSDGsはフードロス問題だけではないと考えお尋ねします。(1) 町はフードロスについて啓発をしていますが、完全する事によって食べ過ぎになると健康に良くない結果をもたらす場合があります。食べ過ぎることを呼びかけるなら、同時に作りすぎない事、持ち帰りができる事を呼びかけるべきですが、こうした取り組みはされていますか。

(2) 広報11月号の町長エッセイにおいて地産地消が推奨されていましたが、学校給食における現状は？またさらに踏み込んでオーガニック給食をめざすお考えは？

(3) 図書館の図書購入費

A 食における持続可能性にも取り組みたい



回答 (町長、教育長)

は平成26年度から令和3年度の8年間で減り続けています。電子図書についても休止したままです。今後の方針をお聞きします。

(1) 家庭だけでなく飲食店にも、「食べきる」と同時に「作り過ぎない・調節できる・持ち帰りができること」も呼びかけたい。また塩分や野菜

町図書館こどもコーナー



菜摂取量などについても啓発していく。
(2) 地場産の定義は県内産で、現状は県内産54.3%、町内産9.4%で県平均より良い。有機食材については生産者が少なく今は困難だが、食育や環境など総合的課題として検討したい。
(3) 蔵書予定数をはるかに超過しており購入方法を見直してきた。電子図書も利用が増が見込めず休止し、その後業者側に広域化の可能性を打診しているが進捗はない。雑誌については購入寄付の実現に向け要項を作成中である。コロナ禍で利用者は減少傾向にあるので、丁寧な発信に努めたい。